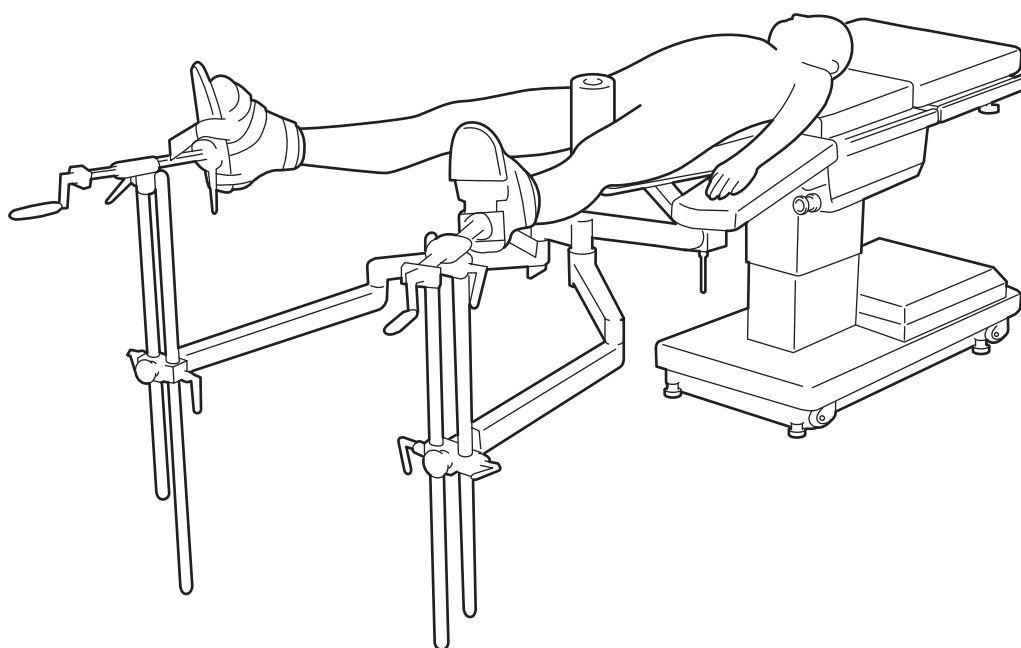




下肢牽引装置 下肢牽引用 V アタッチメント 取扱説明書



本製品は手術を目的として設計されています。手術以外の目的で使用すると重大な事故を起こすおそれがあります。

操作や保守を行う者は必ず注意事項等情報および本書を読んで内容を理解してください。本書は、本製品に関わる者の参考のために適切な収納場所に保管して、必要なときに読めるようにしてください。

目次

1 章 はじめに	1
1.1 本書について	1
1.2 本製品について	1
1.3 構成品	2
2 章 保証について	5
3 章 お使いになる前に	6
3.1 お使いになる前にお読みください	6
4 章 使用方法	8
4.1 下肢牽引用 V 字アタッチメント	8
取り付け方 下肢牽引用 V 字アタッチメント	8
取り付け方 下肢牽引用 V 字アタッチメント ピン固定	9
取り外し方	10
4.2 下肢牽引装置	11
A：アーム（牽引装置アームおよび展開アーム）・サポートロッド	11
B：牽引器・靴型	13
C：幅広ベッケンⅡ・股間支柱・マット・布製補助ボードⅡ	15
D：骨盤補助ボード	16
E：L 型膝関節屈曲用ポール	16
F：下肢受	17
G：側臥位牽引用股間支柱（左右兼用）	18
H：側臥位牽引用下腿受（左右兼用）	19
4.3 手術体位例	20
A：大腿骨頸部骨折手術位	20
B：大腿骨骨幹部骨折手術位	22
C：下腿骨骨折手術位	24
5 章 保守と点検	26
5.1 使用前・使用後の点検	26
5.2 清掃・消毒	26
5.3 業者による保守点検	26
6 章 仕様	27
6.1 下肢牽引装置	27
6.2 下肢牽引用 V 字アタッチメント	28

1 章 はじめに

1.1 本書について

本書は、本製品を安全に、効果的にご使用いただくための取扱説明書です。
本製品をご使用いただく前に、必ず本書を読み、操作・点検事項を十分理解されてから使用してください。
本書に従わなかった場合、重大な事故に結びつくおそれがあります。

本書の警告および注意内容、または本製品に貼り付けた警告および注意内容を理解していただくため、安全のための情報を以下のように使い分けています。



この表示を無視して誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



この表示を無視して誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的障害の発生が想定される内容を示しています。

補足

この表示は、製品の機能について補足事項を示しています。

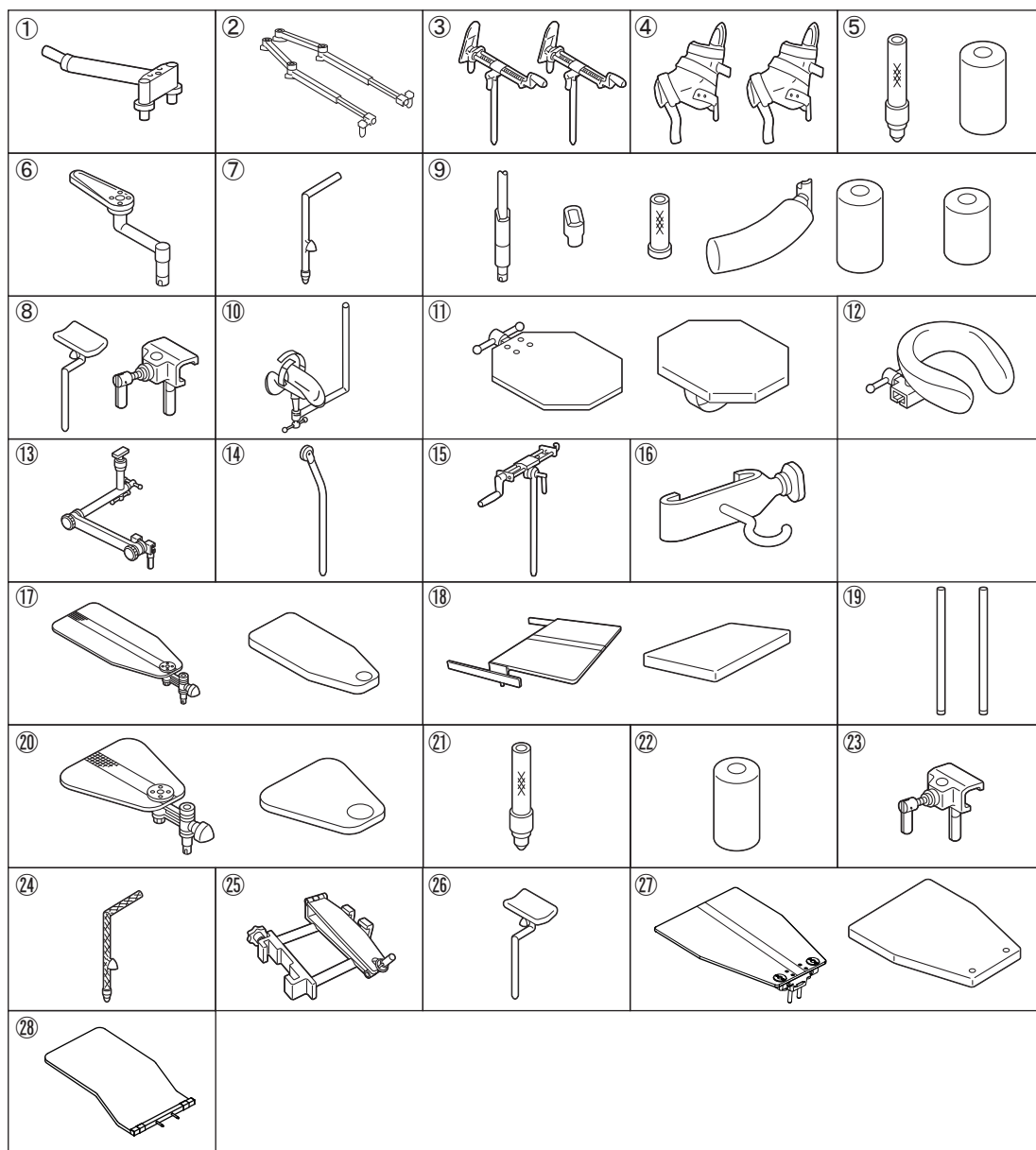
本書に記載されている操作・点検に関する注意事項は、本製品を手術の目的に使用する場合に関するものです。手術以外の目的に使用する場合、および本書に記載されていない操作・点検を行う場合の安全については、すべて使用者側の責任になります。

1.2 本製品について

本製品は、手術台に付属するアクセサリです。本製品は牽引手術時に下肢牽引装置を取り付け、患者のポジションを設定することを目的としています。
病院の手術室において、使用方法を熟知した医師・看護師・医療機器の技術者が使用してください。

1.3 構成品

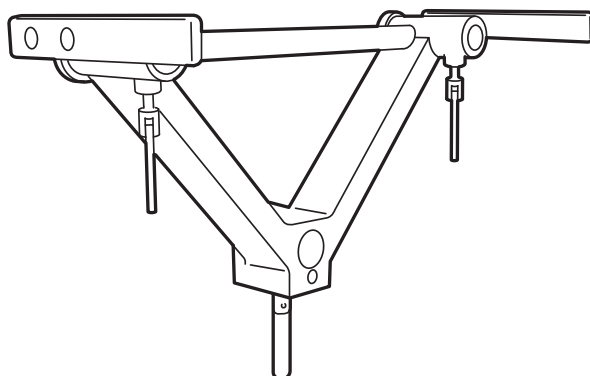
■ 下肢牽引装置



番号	商品コード	商品名	番号	商品コード	商品名
①	08-115-01	牽引装置アーム	⑯	08-115-19	簡易直達牽引鉤アタッチメント
②	08-115-02	展開アーム（2本組）	⑰	08-115-20	MOS-1300 用 移動式骨盤台
③	08-115-04	牽引器（2本組）	⑱	08-115-26	骨盤補助ボード
④	08-115-05	靴型（2個組）	⑲	08-115-27	サポートロッド（2本組） φ 25 × 1000mm
⑤	08-115-07	股間支柱（マット付）	⑳	08-115-35	移動式骨盤台 1101 用
⑥	08-115-08	小児用骨盤台（H）	㉑	08-115-36	股間支柱のみ
⑦	08-115-09	L 型膝関節屈曲用ポール	㉒	08-115-37	股間支柱用マットのみ
⑧	08-115-10	下肢受 下肢受け用固定金具付	㉓	08-115-38	下肢受け用固定金具
⑨	08-115-11	側臥位牽引用股間支柱（カラー付）	㉔	08-115-43	カーボン製 L 型膝関節屈曲用ポール
⑩	08-115-12	側臥位牽引用下腿受	㉕	08-115-45	ボルシヤルト用直達牽引器
⑪	08-115-13	頭部台（M）	㉖	08-115-73	下肢受本体のみ
⑫	08-115-14	顔面受（N）	㉗	08-115-76	幅広バッケン（マット付）Ⅱ
⑬	08-115-15	頭部台アーム（O）	㉘	08-115-77	布製補助ボードⅡ（バッケンピン固定）
⑭	08-115-17	牽引滑車			
⑮	08-115-18	直達牽引器			

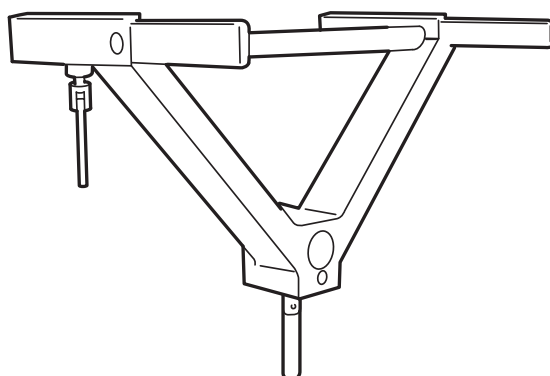
■ 下肢牽引用 V 字アタッチメント

● 下肢牽引用 V 字アタッチメント ピン固定



商品コード	商品名
08-115-23	下肢牽引用 V 字アタッチメント ピン固定
08-115-24	下肢牽引用 V 字アタッチメント ピン固定（カセット対応）

● 下肢牽引用 V 字アタッチメント



商品コード	商品名
08-115-30	下肢牽引用 V 字アタッチメント
08-115-31	下肢牽引用 V 字アタッチメント カセット対応

2 章 保証について

本製品は下記の保証修理規定に従って修理いたします。

<保証修理規定>

1. 保証期間は納品／設置日から1年間です。保証期間内に注意事項等情報・取扱説明書・貼付ラベル等の注意書に従ったご使用で故障した場合には無償修理をさせていただきます。
2. 修理をご依頼になる場合には、お買い上げの販売店または弊社営業所にお申しつけください。お申しつけに当たっては以下の内容をご連絡ください。
 - (ア) 型名
 - (イ) REF・LOT 番号（製品に貼付しているラベルをご確認ください）
 - (ウ) 故障の状態
3. 保証期間内でも以下の場合には原則として有料にさせていただきます。
 - (ア) 使用上の誤り及び不当な修理や改造による故障及び損傷。
 - (イ) お買い上げ後の設置場所の移設、輸送、落下などによる故障及び損傷。
 - (ウ) 火災、地震、水害、落雷、その他天災地変及び公害、塩害、ガス害（硫化ガスなど）、異常電圧、指定外の使用電源（電圧、周波数）などによる故障及び損傷。
 - (エ) 車両、船舶等に搭載された場合に生ずる故障及び損傷。
 - (オ) 消耗製品が自然劣化し消耗部品を取り替える場合。
 - (カ) 前各号に掲げる場合のほか、故障の原因が、お客様の使用方法にあると認められる場合。
4. 保証期間経過後の修理についてご不明な場合は、お買い上げの販売店または弊社営業所にお問い合わせください。
5. 本規定は日本国内においてのみ有効です。

以上

3 章 お使いになる前に

3.1 お使いになる前にお読みください

本製品を使用するにあたって、以下の警告・注意事項をよくお読みのうえ、必ずお守りください。

■ 下肢牽引装置



締結部の固定は必ず確認してください。ゆるんだ状態では機器が外れたり、動いたりして患者がけがをするおそれがあります。



● マットが使用されている商品 ^(※1)

- ・ マットが使用されている商品のマット部分には鋭利な物をあてないでください。破損するおそれがあります。
- ・ マットに直接テープ等を貼付しないでください。破損の原因になります。
- ・ マットは平らな場所に置いて保管してください。立てかけたり折り曲げたりすると変形や破損の原因になります。
- ・ マットの上に手術台アクセサリや他の医療機器等を載せて保管しないでください。変形や破損の原因になります。

● 消毒液等の使用

- ・ 靴型 (④)・側臥位牽引用下腿受 (⑩) およびマットが使用されている商品 ^(※1) は、消毒液等の種類によっては材質が劣化するおそれがあります。消毒液等を使用する前に必ず表示または説明書の内容を確認してください。

※1：マットが使用されている商品

No.	商品名	No.	商品名
⑤	股間支柱（マット付）	⑮	骨盤補助ボード
⑧	下肢受 下肢受け用固定金具付	⑳	移動式骨盤台 1101 用
⑨	側臥位牽引用股間支柱（カラー付）	㉒	股間支柱用マットのみ
⑪	頭部台（M）	㉔	下肢受本体のみ
⑫	顔面受（N）	㉗	幅広ベッケン（マット付）Ⅱ
⑰	MOS-1300 用 移動式骨盤台		

表中の No. は、1.3 構成品の番号に対応

■ 下肢牽引用 V 字アタッチメント



締結部の固定は必ず確認してください。ゆるんだ状態では機器が外れたり、動いたりして患者がけがをするおそれがあります。



手術台に取り付けるときは、必ず本品単体で固定してください。下肢牽引装置を取り付けた状態で固定すると、固定が不十分になり落下するおそれがあります。

■ その他



● 分解・改造の禁止

- ・ 本製品を分解または改造しないでください。故障の原因になります。

● 患者の体位

- ・ 患者の任意の体位を確保するために手術台アクセサリーで支持するときは、常に患者の状態を監視してください。長時間の体位保持は神経麻痺や褥瘡の原因になります。
- ・ 側臥位で本製品を使用するときは、患者の腕を上肢台^(※2)に固定してください。固定しない状態で使用すると患者がけがをするおそれがあります。

● 保守点検

- ・ 使用前・使用後の点検、および適切な保守点検を必ず行ってください。使用期間または使用頻度によっては、部品の著しい消耗・劣化・破損等により、該当部品の交換が必要な場合があります。
- ・ 保守点検については、ご購入店または弊社に相談してください。

● 故障時の対応

- ・ 本製品が故障したと思われるときは、本製品に「故障」・「使用禁止」・「修理必要」等の適切な表示をし、ご購入店または弊社に連絡してください。
- ・ 修理は弊社および弊社が認めた業者が行います。必ずご購入店または弊社に修理を依頼してください。
- ・ 感染防止のため、修理を依頼するときは必ず本製品の清掃および消毒をしてください。



● 併用する機器やアクセサリー

- ・ 他社製手術台では使用しないでください。他社製手術台での使用可能は確認していません。
- ・ 手術台を作動するときは他のアクセサリーやテーブルトップとの接触・干渉に注意してください。作動中に接触して、手術台または併用するアクセサリーが損傷するおそれがあります。
- ・ 分離式手術台での使用は分離／装着時は必ず下肢牽引装置を取り外してください。取り付けた状態では分離／装着ができません。
- ・ 衛生のため、患者が本製品に触れる部分には必ず滅菌済ドレープを使用してください。

● 廃棄時の注意

- ・ 本製品を廃棄するときは、関係する法律または地方自治体の条例に基づいて適切に処置してください。

※ 2 : 上肢台は別販売品です。

4 章 使用方法

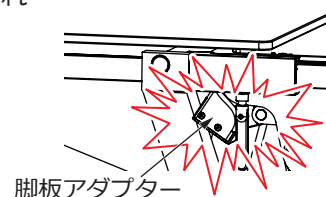
4.1 下肢牽引用 V 字アタッチメント



- ・ 締結部の固定は必ず確認してください。ゆるんだ状態では機器が外れたり、動いたりして患者がけがをするおそれがあります。
- ・ 本製品を手術台に取り付けるときは、脚板差込軸またはサイドレールに完全に差し込まれていることを確認してから固定してください。完全に差し込まれていない状態では機器が外れたり、動いたりして患者がけがをするおそれがあります。
- ・ 本製品を使用するときは、手術台のスライド機能を中点位置にしてください。中点位置以外で使用すると不安定な状態となり、転倒するおそれがあります。

●MOT-VS700 との組み合わせ使用について

- ・ 復帰または脚板上げ操作をしないでください。脚板アダプターと本製品が接触し、本製品が脱落するおそれがあります。

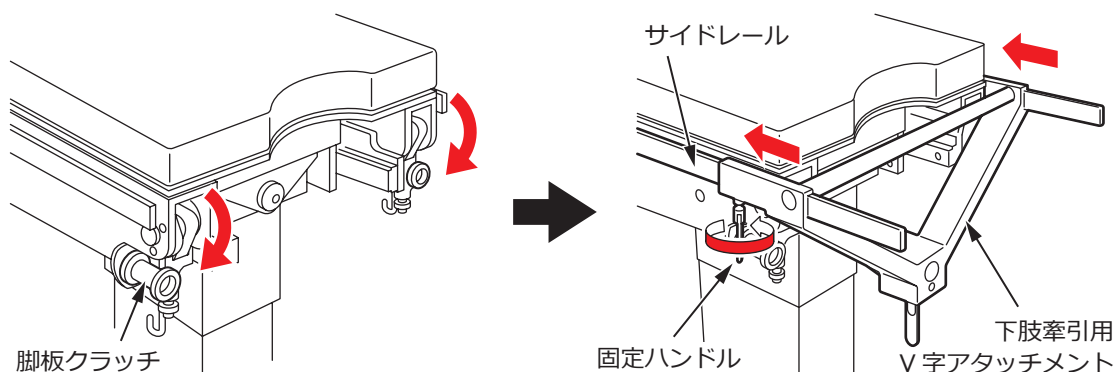


本製品を取り付けた状態では、手術台の中点位置より頭側にスライドした位置で下降しないでください。アーム固定ハンドル先端がコラムに接触して、破損するおそれがあります。

取り付け方 下肢牽引用 V 字アタッチメント

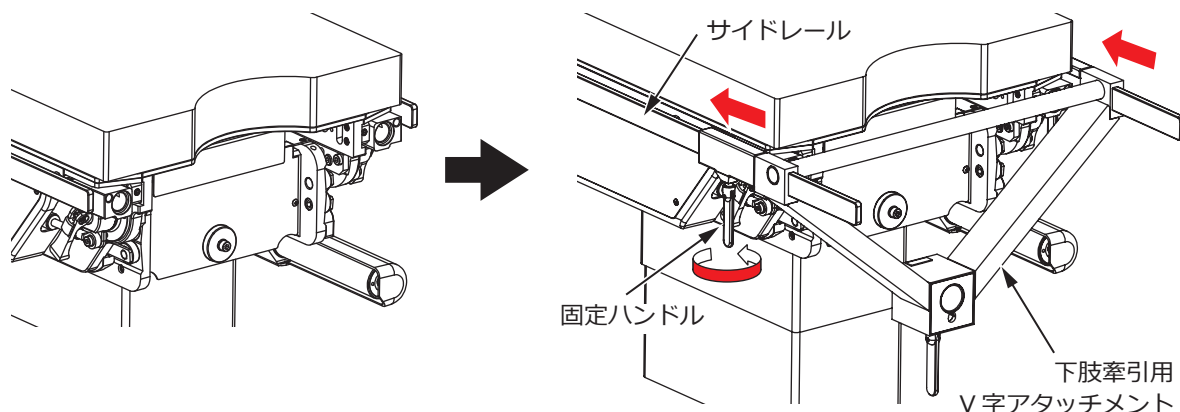
A : MOT-5602BW ・ MOT-5602SRMB ・ MOT-VS700

1. 手術台のテーブルトップを水平位置およびスライドを中点位置にします。
2. テーブルトップを最低位にします。
(MOT-VS700 は一時停止する高さまで下降します。)
3. 手術台の脚板を取り外します。
4. 脚板クラッチまたは脚板差込部を 90 度下げます。
5. 本製品を手術台のサイドレールに差し込みます。
6. 左右の固定ハンドルを回して固定します。

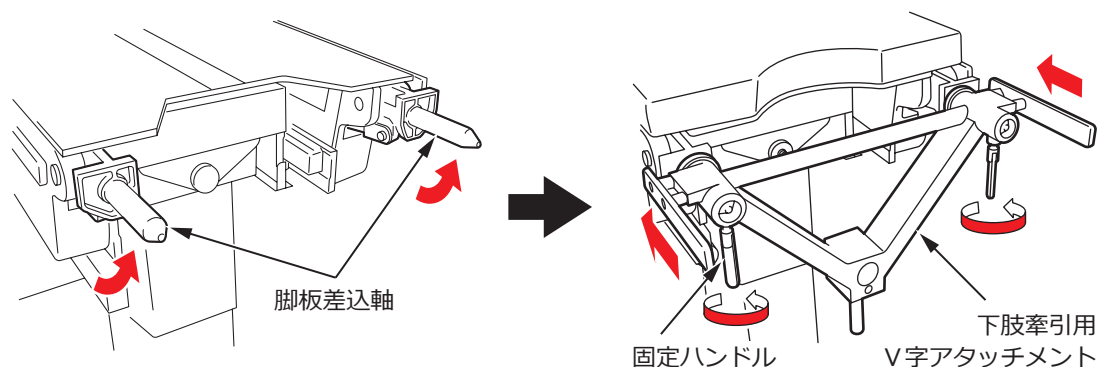


B : MOT-VS500DK ・ MOT-VS600 ・ MOT-VE100

1. 手術台のテーブルトップを水平位置およびスライドを中点位置にします。
2. テーブルトップを最低位にします。
(MOT-VS600 は一時停止する高さまで下降します。)
3. 手術台の脚板を取り外します。
4. 本製品を手術台のサイドレールに差し込みます。
5. 左右の固定ハンドルを回して固定します。

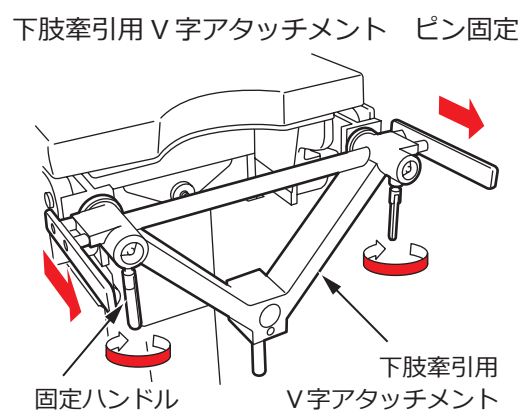
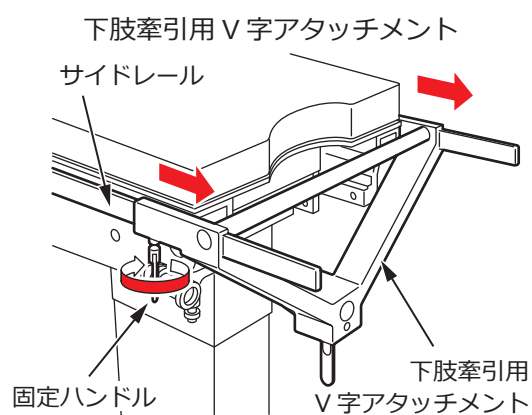
**取り付け方 下肢牽引用 V 字アタッチメント ピン固定****C : MOT-3602 ・ MOT-3502 ・ MOT-VS500SK**

1. 手術台のテーブルトップを水平位置およびスライドを中点位置にします。
2. テーブルトップを最低位にします。
3. 手術台の脚板を取り外します。
4. 脚板差込軸が停止するまで操作ボックスの **[E]** を押してから **[T]** を押します。
5. 本製品を手術台の脚板差込軸に差し込みます。
6. 左右の固定ハンドルを回して固定します。



取り外し方

1. 本製品の左右の固定ハンドルを回してゆるめます。
2. 手術台から本製品を取り外します。



4.2 下肢牽引装置

A : アーム（牽引装置アームおよび展開アーム）・サポートロッド



- ・ 締結部の固定は必ず確認してください。ゆるんだ状態では機器が外れたり、動いたりして患者がけがをするおそれがあります。
- ・ アーム（牽引装置アームおよび展開アーム）を付属品移動車から下肢牽引用カートに移動するときは、必ず2人以上で行ってください。落下して破損・けがをするおそれがあります。（※付属品移動車および下肢牽引用カートは別販売品です。）
- ・ 患者の体位が決定するまでは、展開アームを完全に固定しないでください。

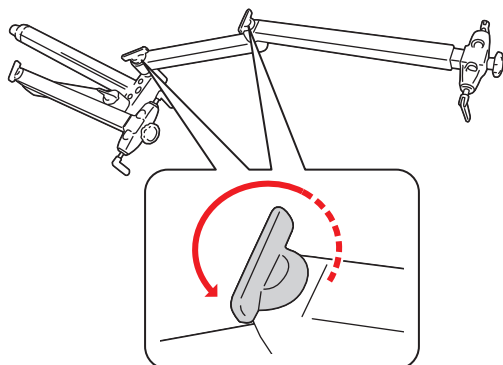


●MOT-8302 整形テーブルとの組み合わせについて

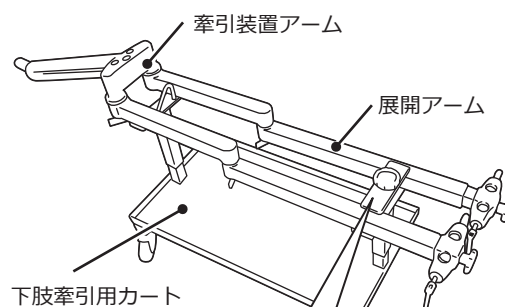
コラムとテーブルトップを装着／分離するときは、牽引装置アームをテーブルトップから取り外してください。取り付けた状態では、装着／分離ができません。

1. アーム（牽引装置アームおよび展開アーム）を下肢牽引用カートに載せます。

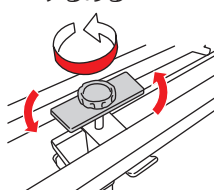
展開アームを裏返します。
固定ハンドルをゆるめてアーム部を伸ばします。



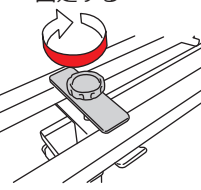
裏返して下肢牽引用カートに載せます。



ゆるめる



固定する

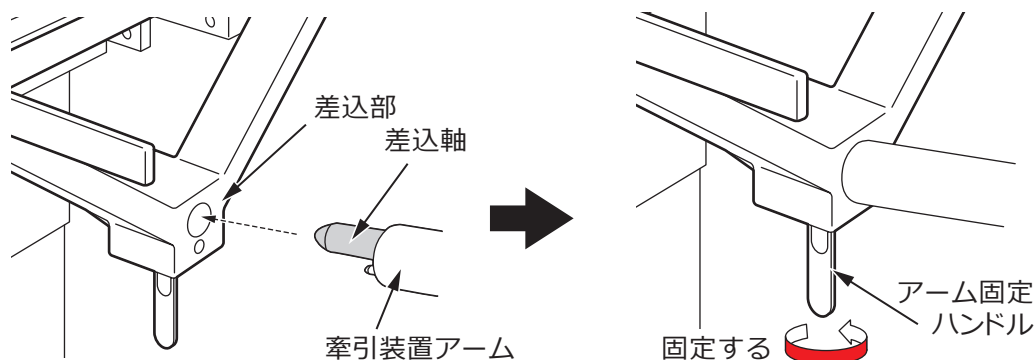


下肢牽引用カートのハンドルを回して
展開アームを固定します。

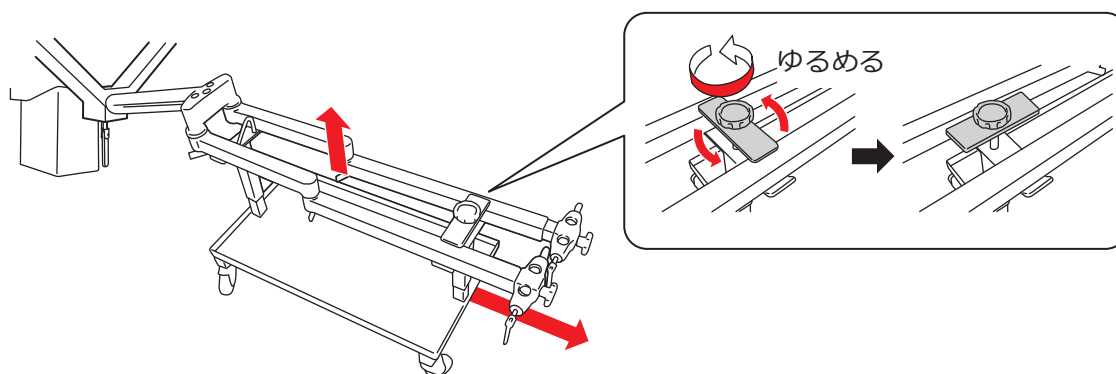
2. 下肢牽引用 V 字アタッチメントを取り付けます。

3. 下肢牽引用 V 字アタッチメントのアーム固定ハンドルを回してゆるめます。

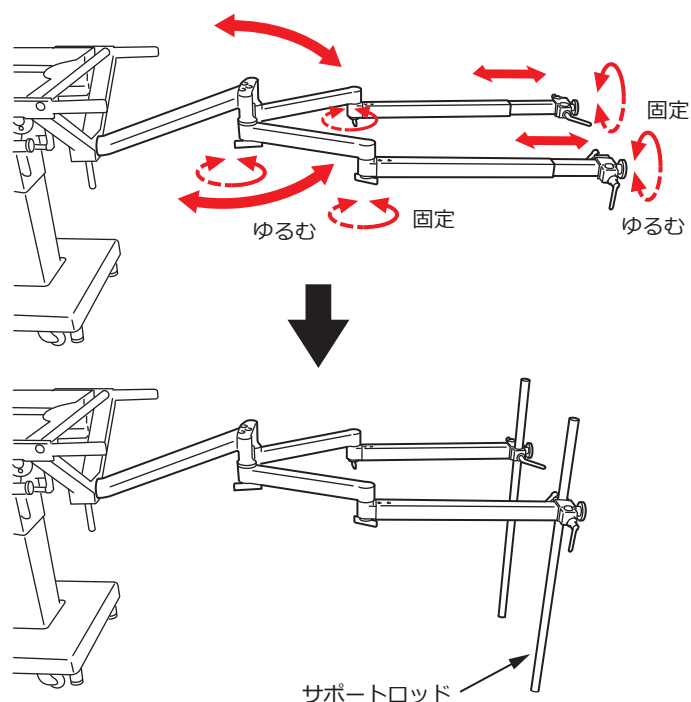
4. 牽引装置アームの差込軸を下肢牽引用 V 字アタッチメントの差込部に差し込みます。
5. アーム固定ハンドルを回して固定します。



6. 下肢牽引用カートの手柄をゆるめて、アームが離れる状態にします。
7. 手術台の操作ボックスで上昇を操作します。
下肢牽引用カートが展開アームから離れたら、下肢牽引用カートを移動します。



8. 展開アームの屈折および伸縮ハンドルを操作してセットします。
9. 展開アーム先端の差込部（内側）にサポートロッドを取り付けます。

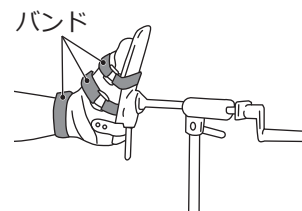




- ・ 締結部の固定は必ず確認してください。ゆるんだ状態では機器が外れたり、動いたりして患者がけがをするおそれがあります。
- ・ 調整ハンドルは、必ず本体を持って操作してください。ゆるんだ瞬間に動いて、患者がけがをするおそれがあります。
- ・ 靴型のバンドは必ず締めてください。靴型が外れて、患者がけがをするおそれがあります。



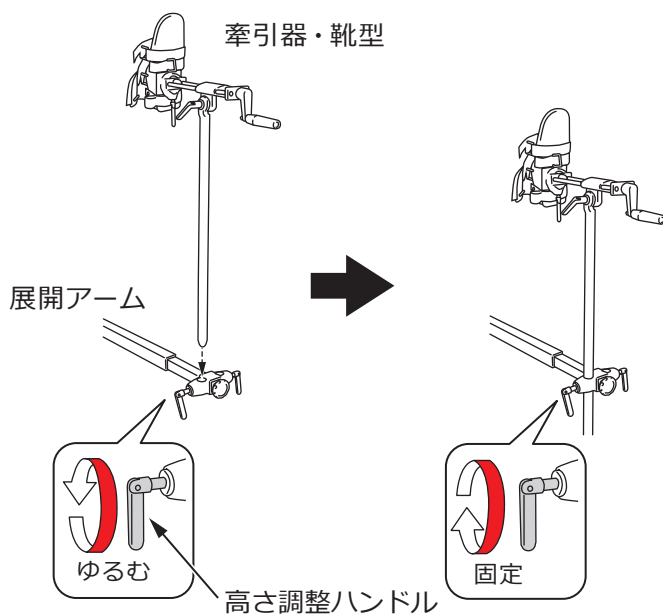
- ・ 靴型のバンドを無理に引っ張ると破損するおそれがあります。
- ・ 足部の抜け落ち防止のため、靴型取り付けの際には3本のバンドを確実に締め、足部が固定されていることを確認してください。
- ・ 患者の状態や術式によっては、強い牽引が必要になる場合があります。その場合は、牽引時に靴型から足部が抜け落ちないように注意してください。



■ 取り付ける

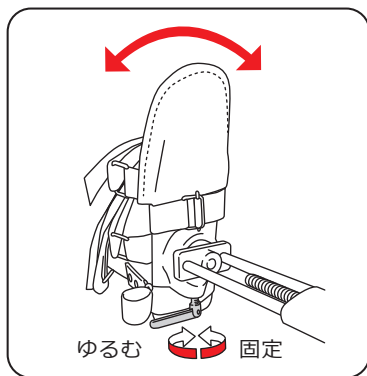
左右同じように取り付けて、調整します。

1. 展開アーム先端の高さ調整ハンドルをゆるめます。
2. 展開アーム先端の差込部（外側）に牽引器を差し込みます。
3. 高さ調整ハンドルを回して固定します。



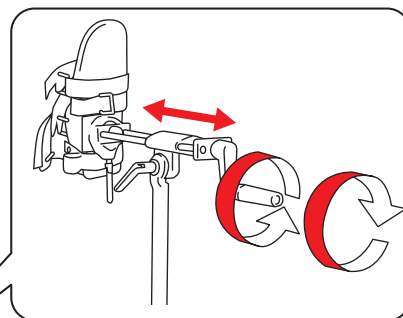
■ 調整する

● 靴型調整ハンドル



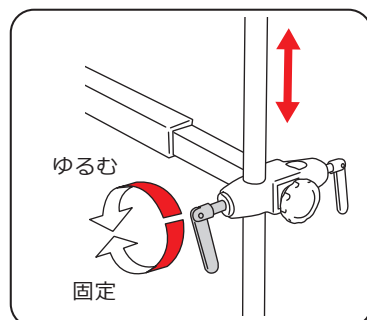
靴型の向きを調整します。

● 牽引調整ハンドル



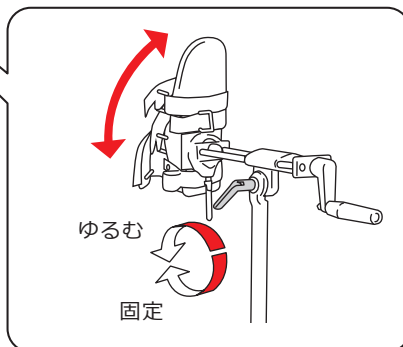
牽引力を調整します。

● 高さ調整ハンドル（展開アーム）



靴型の高さを調整します。

● 角度調整ハンドル



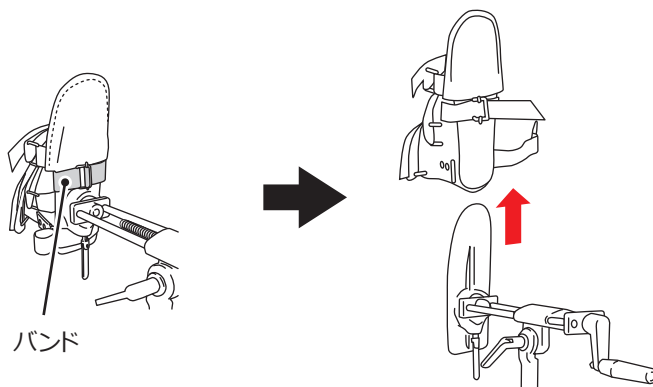
靴型の角度を調整します。

■ 靴型の取り付け／取り外し

靴型を清掃する場合は、牽引器から取り外します。

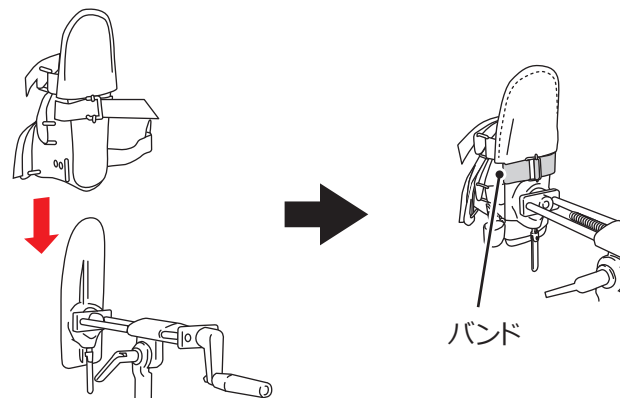
● 靴型を取り外す

バンドをゆるめて靴型を取り外します。



● 靴型を取り付ける

靴型を取り付けてバンドを締めます。

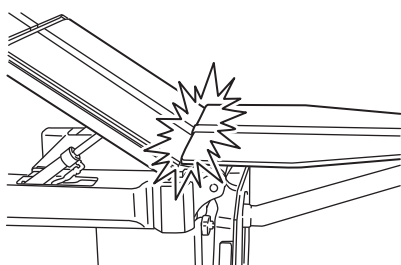




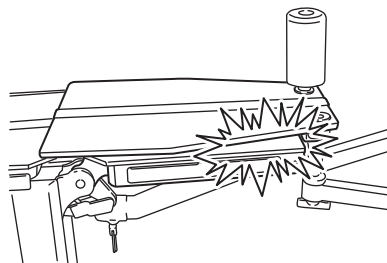
- ・ 締結部の固定は必ず確認してください。ゆるんだ状態では機器が外れたり、動いたりして患者がけがをするおそれがあります。

●MOS-1302B との組み合わせ使用について

- ・ 幅広ベッケンⅡを取り付けた状態で下記の操作をしないでください。幅広ベッケンⅡまたはテーブルトップが破損するおそれがあります。

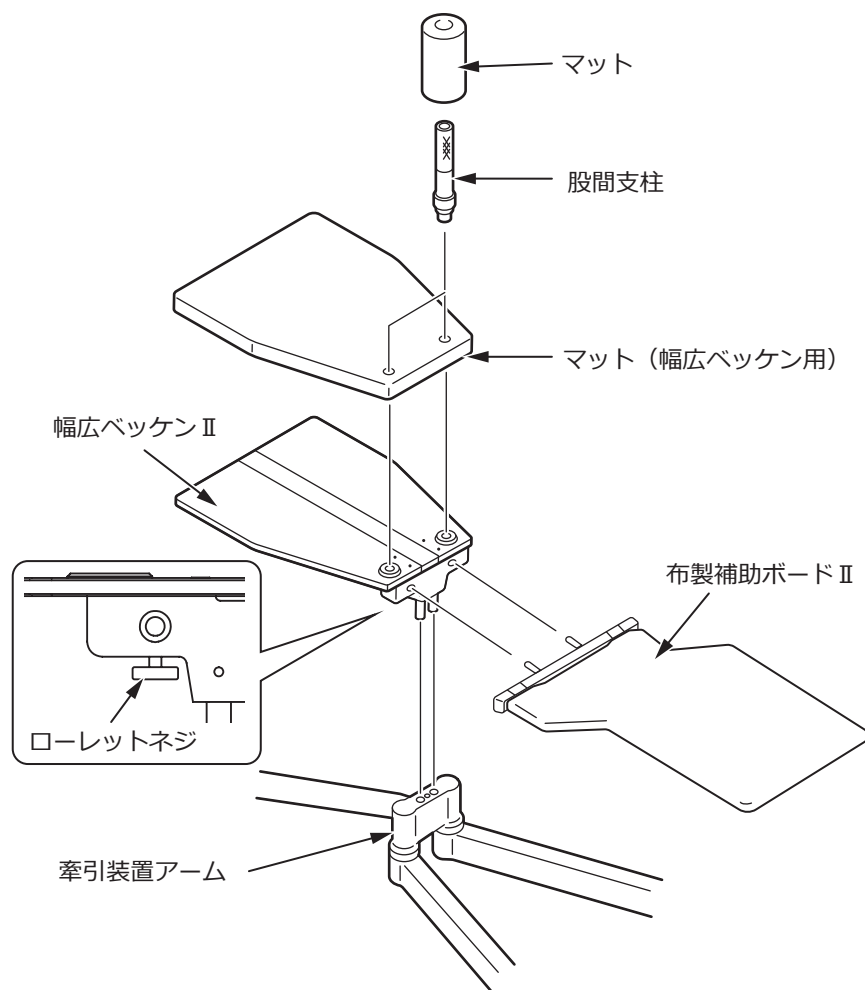


背板屈折：水平位→上がり



腰板屈折：水平位→上がり

1. 牽引装置アームの差込部に幅広ベッケンⅡを差し込みます。
2. 必要に応じて、布製補助ボードⅡを幅広ベッケンⅡに差し込みます。
3. 幅広ベッケンⅡのローレットネジ2箇所を回して固定します。
4. 幅広ベッケンⅡにマット（幅広ベッケン用）を取り付けます。
5. マット（幅広ベッケン用）の差込部に股間支柱を差し込みます。
6. 股間支柱にマットを差し込みます。

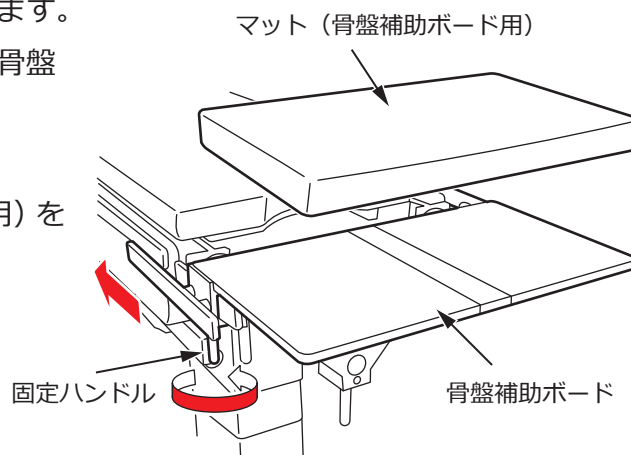


D：骨盤補助ボード



締結部の固定は必ず確認してください。ゆるんだ状態では機器が外れたり、動いたりして患者がけがをするおそれがあります。

1. 下肢牽引用 V 字アタッチメントを取り付けます。
2. 下肢牽引用 V 字アタッチメントのレールに骨盤補助ボードを取り付けます。
3. 左右の固定ハンドルを回して固定します。
4. 骨盤補助ボードにマット（骨盤補助ボード用）を取り付けます。

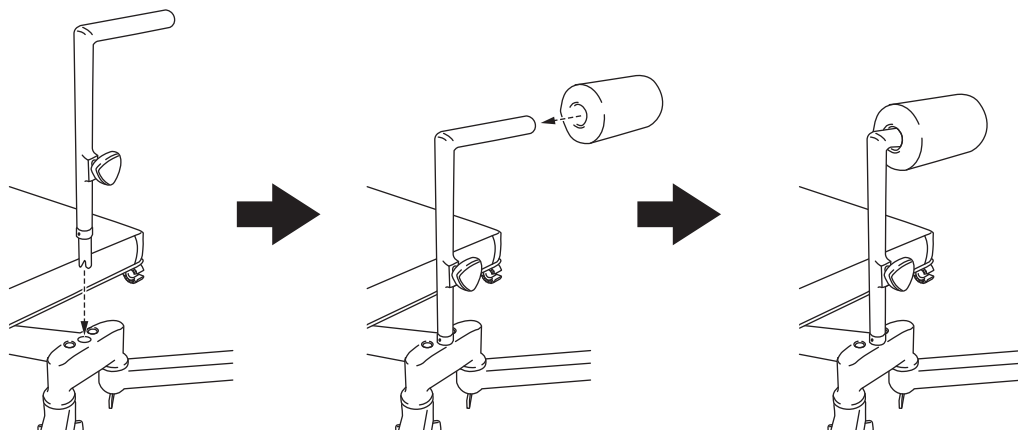


E：L 型膝関節屈曲用ポール

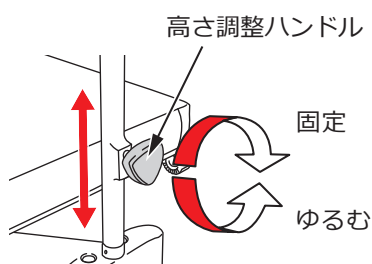


- ・ 締結部の固定は必ず確認してください。ゆるんだ状態では機器が外れたり、動いたりして患者がけがをするおそれがあります。
- ・ 調整ハンドルは必ず本体を持って操作してください。ゆるんだ瞬間に動いて、患者がけがをするおそれがあります。

1. 牽引装置アームの差込部に L 型膝関節屈曲用ポールを差し込み、マットを取り付けます。体位の向きに合わせて取り付けます。



2. 高さを調整します。



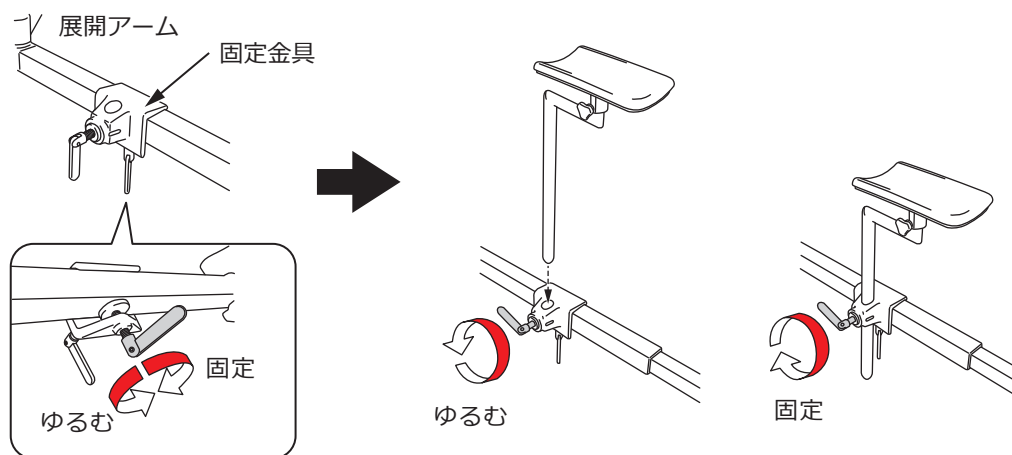
下肢受は患者の足部を牽引器・靴型に固定するまでの間や、フリー状態の下肢を受ける場合など、必要に応じて展開アームの中間位置に取り付けます。



- ・ 締結部の固定は必ず確認してください。ゆるんだ状態では機器が外れたり、動いたりして患者がけがをするおそれがあります。
- ・ 調整ハンドルは必ず本体を持って操作してください。ゆるんだ瞬間に動いて、患者がけがをするおそれがあります。

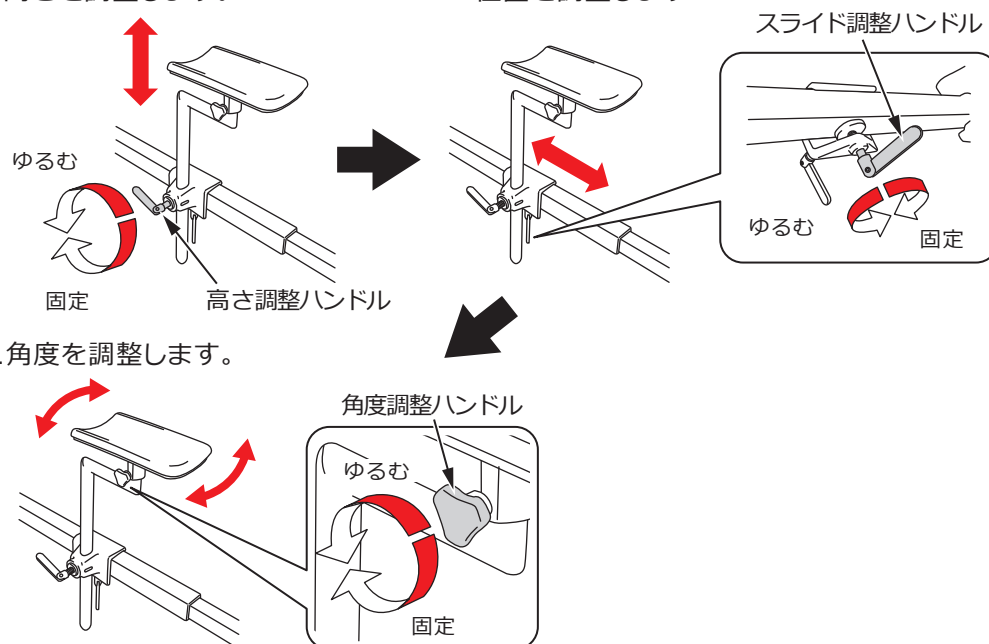
■ 取り付ける

1. 展開アームに固定金具を取り付けます。
2. ハンドルを回して固定金具を固定します。
3. 固定金具の差込部に下肢受を差し込みます。



■ 調整する

1. 高さを調整します。
2. 位置を調整します
3. 角度を調整します。



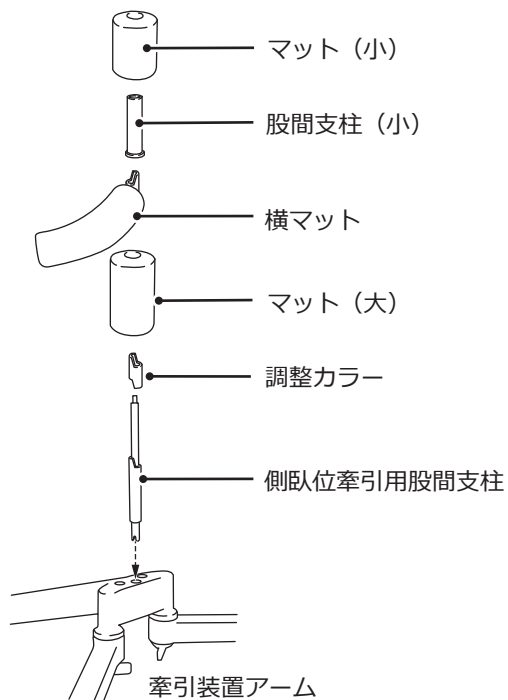
G：側臥位牽引用股間支柱（左右兼用）

1. 牽引装置アームの差込部に図の順序で取り付けます。

調整カラーは患者の体格に応じて使用します。

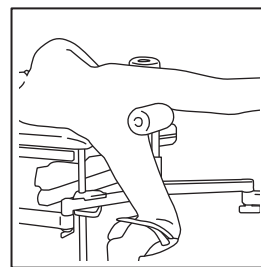
2. 横マットは患者の体位の向きに合わせます。

側臥位牽引用股間支柱を差し込む向きによって、横マットの向きが決まります。

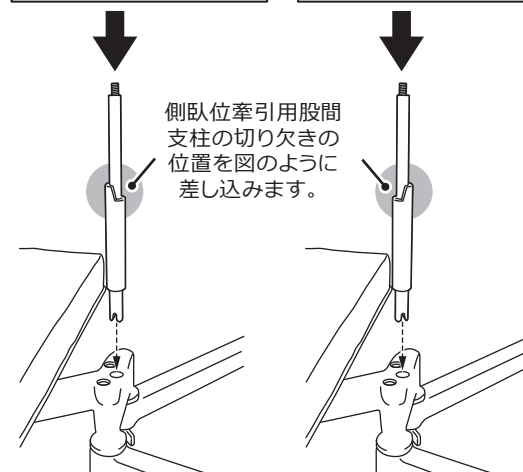
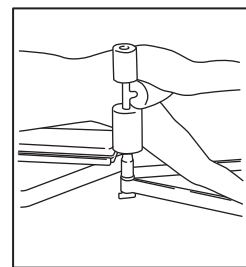


横マットの向き

左側臥位



右側臥位





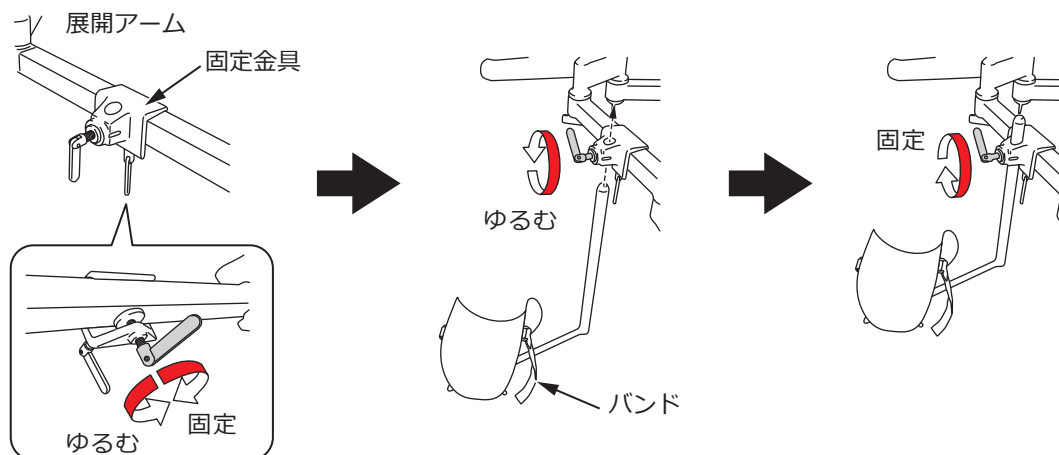
- ・ 締結部の固定は必ず確認してください。ゆるんだ状態では機器が外れたり、動いたりして患者がけがをするおそれがあります。
- ・ 調整ハンドルは、必ず本体を持って操作してください。ゆるんだ瞬間に動いて、患者がけがをするおそれがあります。



側臥位牽引用下腿受のバンドは必ず締めてください。また、バンドを無理に引っ張ると破損するおそれがあります。

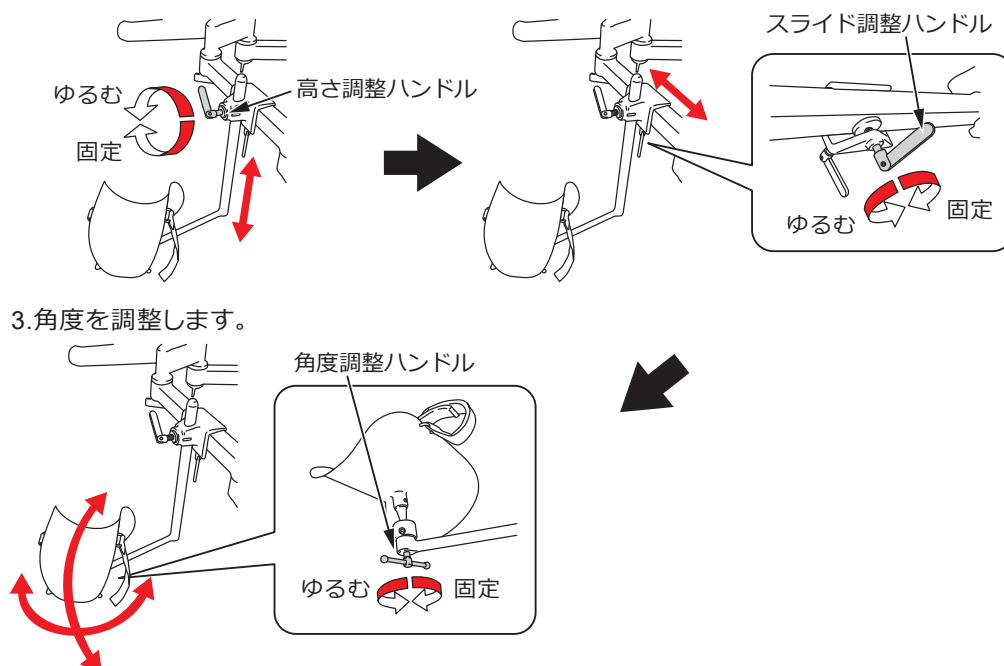
■ 取り付ける

1. 展開アームに固定金具を取り付けます。
2. ハンドルを回して固定金具を固定します。
3. 固定金具の差込部に下腿受を差し込みます。



■ 調整する

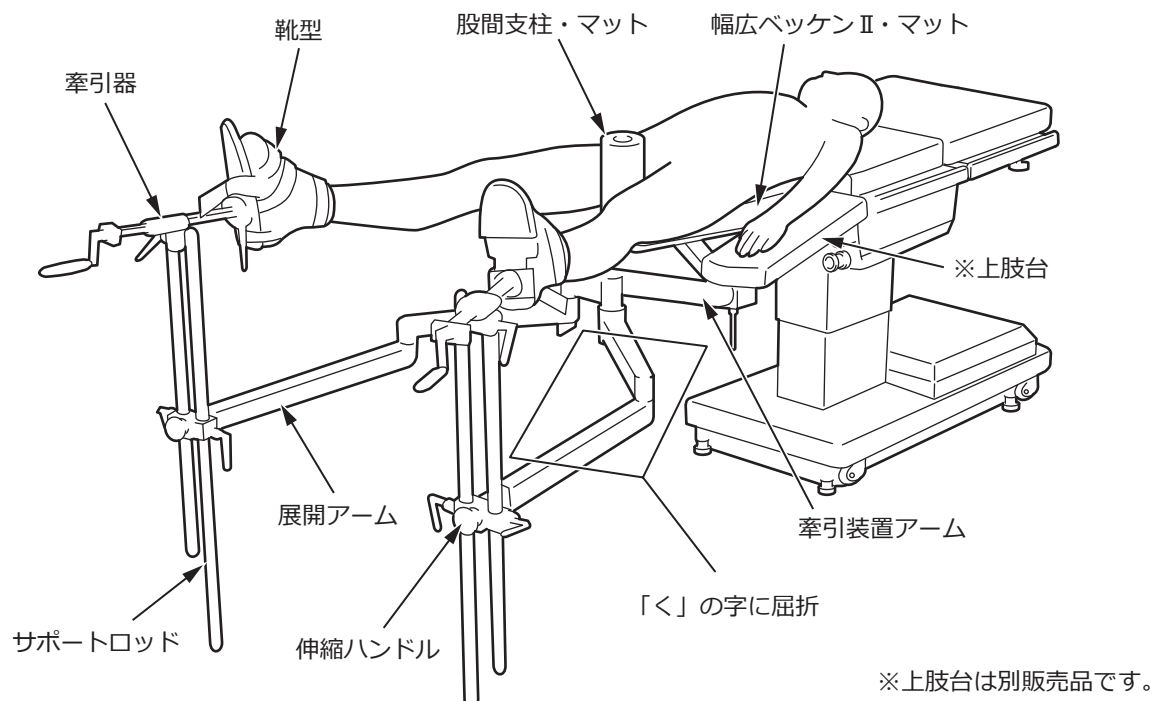
1. 高さを調整します。
2. 位置を調整します。
3. 角度を調整します。



4.3 手術体位例

牽引装置アームおよび展開アームを取り付けた後、以下の手順でセットします。

A：大腿骨頸部骨折手術位



1. 展開アーム先端の差込部（内側）にサポートロッドを差し込みます。
2. 展開アーム先端の差込部（外側）に牽引器を差し込みます。
3. 牽引器先端に靴型を取り付けて、バンドで固定します。
4. 牽引器の牽引調整ハンドルで靴型を患者側に移動します。

補足

患者の足を固定する前に、靴型を患者側に移動します。

5. 展開アームに固定金具を取り付けます。
6. 固定金具の差込孔に下肢受を差し込みます。

補足

牽引する側の足を牽引器・靴型に直接固定するか、下肢受に乗せてから固定するか、患者の状態によって選択します。

7. 牽引装置アームの差込部に幅広ベッケンⅡを差し込みます。
8. 必要に応じて、布製補助ボードⅡを幅広ベッケンⅡに差し込みます。
9. 幅広ベッケンⅡのローレットネジ2箇所を回して固定します。

10. 幅広ベッケンⅡにマット（幅広ベッケン用）を取り付けます。
11. マット（幅広ベッケン用）の差込孔に股間支柱を差し込みます。

補足

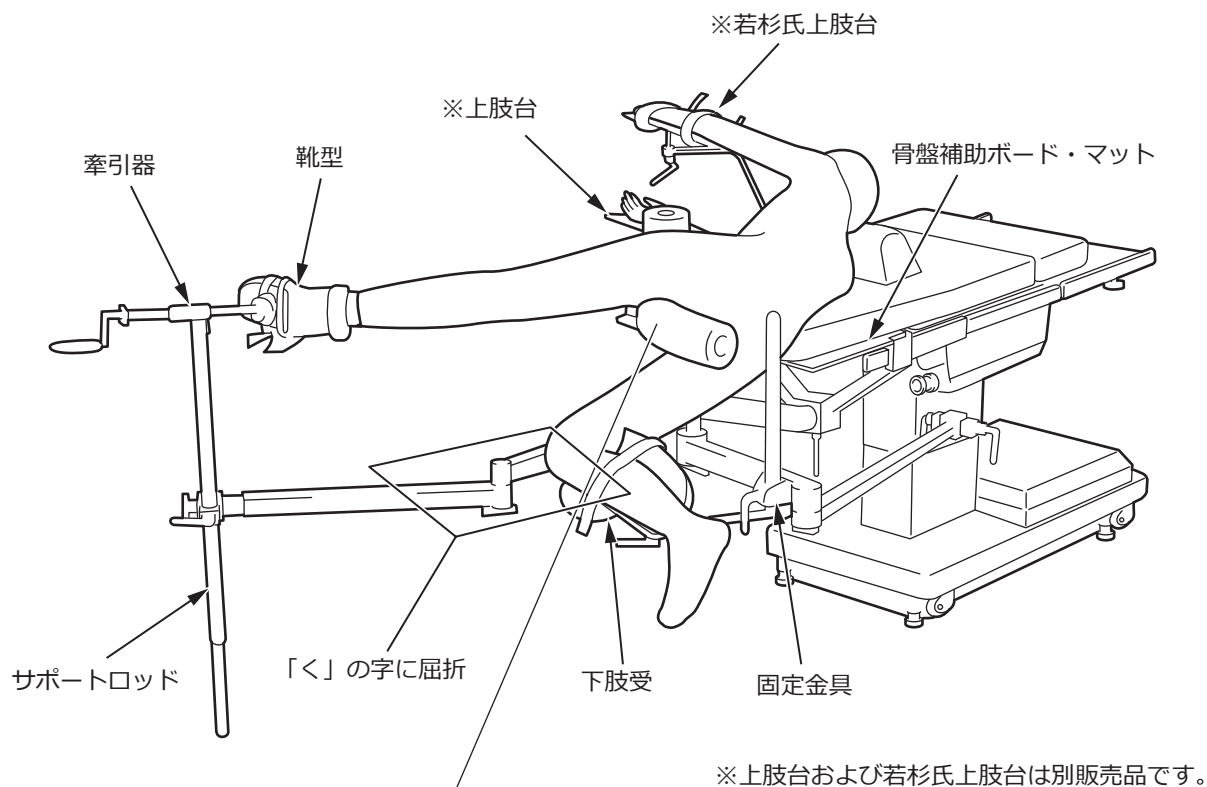
体位の向きに合わせ左右を選択します。

12. 股間支柱にマットを差し込みます。
13. 必要に応じて、サイドレールに上肢台を取り付けます。

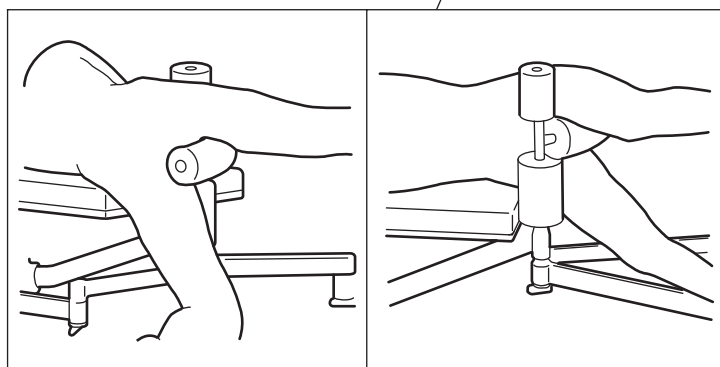
補足

上肢台は別販売品です。詳細は上肢台の注意事項等情報を参照してください。

14. 患者を乗せます。
15. 患者の足を靴型に固定し、下肢受・固定金具を取り外します。
16. 布製補助ボードⅡを取り付けている場合、幅広ベッケンⅡのローレットネジ2箇所をゆるめて布製補助ボードⅡを取り外します。
17. 牽引する側の足の展開アームがエックス線 TV に写らないように「く」の字に屈折します。
18. 「く」の字に屈折した展開アーム先端の伸縮ハンドルで、牽引器の位置を調整します。
19. 患者の患部をエックス線 TV に投影して、牽引および整復をします。



側臥位牽引用股間支柱・マット



調整カラーは患者の体格に応じて使用します。

患者の体位の向きに合わせて横マットの方向を決めます。

1. 牽引する足側の、展開アーム先端の差込部（外側）に牽引器を差し込みます。
2. 牽引器先端に靴型を取り付けて、バンドで固定します。
3. 靴型が横向きになるように、牽引器を調整します。
4. 牽引器の牽引調整ハンドルで靴型を患者側に移動します。
5. 展開アームに固定金具を取り付けます。
6. 固定金具の差込部に下肢受を差し込みます。

補足

患者の足を固定する前に、靴型を患者側に移動します。

補足

牽引する側の足を牽引器・靴型に直接固定するか、下肢受に乗せてから固定するか、患者の状態によって選択します。

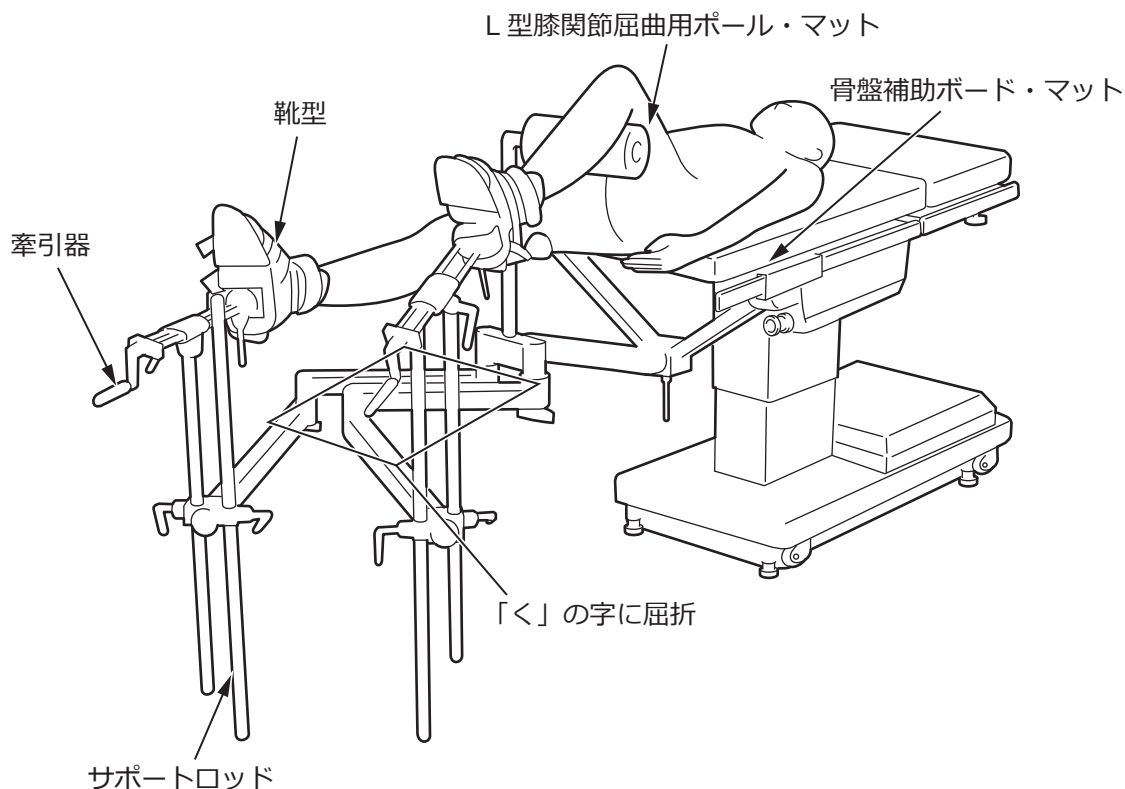
7. 下肢牽引用 V 字アタッチメントのレールに骨盤補助ボードを取り付けます。
8. 骨盤補助ボードの左右の固定ハンドルを回して固定します。
9. 骨盤補助ボードにマット（骨盤補助ボード用）を取り付けます。
10. 患者を乗せます。
11. 患者の体位を側臥位方向にして、下側になる腕を上肢台、上側になる腕を若杉氏上肢台でそれぞれ固定します。

補足

上肢台および若杉氏上肢台は別販売品です。詳細は上肢台および若杉氏上肢台の注意事項等情報を参照してください。

12. 骨盤補助ボードの端に患者の腰が乗るようにして、牽引装置アームの差込孔に側臥位牽引用股間支柱（左右兼用）を図（P.18）の順序でセットします。
13. 側臥位牽引用股間支柱の横マットに患者の内股が当たるように体位を設定します。
14. 患者の足を靴型に固定します。
15. 展開アームに固定金具を取り付けます。
16. 固定金具の差込孔に下肢受を差し込みます。
17. 牽引しない患者の足を下肢受に固定します。
18. 牽引する側の展開アームを、正面および側面からのエックス線 TV に写らないように「く」の字に屈折します。
19. 「く」の字に屈折した展開アーム先端の伸縮ハンドルで、牽引器の位置を調整します。
20. 患者の患部をエックス線 TV に投影して、牽引および整復をします。

C：下腿骨骨折手術位



1. 展開アーム先端の差込部（内側）にサポートロッドを差し込みます。
2. 展開アーム先端の差込部（外側）に牽引器を差し込みます。
3. 牽引器先端に靴型を取り付けて、バンドで固定します。
4. 牽引器の牽引調整ハンドルで靴型を患者側に移動します。

補足

患者の足を固定する前に、靴型を患者側に移動します。

5. 展開アームに固定金具を取り付けます。
6. 固定金具の差込部に下肢受を差し込みます。

補足

牽引する側の足を牽引器・靴型に直接固定するか、下肢受に乗せてから固定するか、患者の状態によって選択します。

7. 下肢牽引用V字アタッチメントのレールに骨盤補助ボードを取り付けます。
8. 骨盤補助ボードの左右の固定ハンドルを回して固定します。
9. 骨盤補助ボードにマット（骨盤補助ボード用）を取り付けます。
10. 牽引装置アームの差込部に、牽引する足側にマット（大）を向けて、L型膝関節屈曲用ポールを差し込みます。

11. 患者を乗せます。
12. 患者の足を靴型に固定し、下肢受・固定金具を取り外します。
13. 牽引する側の展開アームを、正面および側面からのエックス線 TV に写らないように、「く」の字に屈折します。
14. 「く」の字に屈折した展開アーム先端の伸縮ハンドルで、牽引器の位置を調整します。
15. 患者の患部をエックス線 TV に投影して、牽引および整復をします。

5 章 保守と点検

5.1 使用前・使用後の点検

使用前および使用後は、本製品に破損または汚れがないか点検を行ってください。

5.2 清掃・消毒



警告

感染防止のため、本製品を使用した後は必ず本製品の清掃および消毒をしてください。



注意

必ず弊社確認済みの消毒液等を使用してください。本製品が変色・変形するおそれがあります。

■ 清掃・消毒の手順

1. 手術台に接続している場合は、手術台から取り外します。
2. マットが付属しているものは、取り外します。
3. 糸くずの出ない清潔な布に適量の消毒液等をつけて、各マットの上面・側面・裏面を拭きます。
4. 3. と同様の手順で、本製品の表面を消毒します。
5. 消毒後 15 分以内に清潔な布でから拭きします。

■ 消毒液等

弊社確認済みの消毒液等は以下のとおりです。

	薬品名称	濃度
a	次亜塩素酸ナトリウム	0.1%
b	ハイポアルコール	10%
c	グルコン酸クロルヘキシジン	0.5%
d	塩化ベンザルコニウム	10%
e	消毒用エタノール	80%
f	イソプロピルアルコール	99.5%

補足

消毒液等の取扱説明書や表示に従って使用してください。

5.3 業者による保守点検

本製品を安全に使用するために、弊社および弊社が認めた業者による保守・点検を実施してください。それ以外の業者による保守・点検は、有害事象の発生、性能・機能の低下を招くおそれがあります。保守・点検を希望される場合は、ご購入店または弊社にお問い合わせください。

6 章 仕様

6.1 下肢牽引装置

●仕様表

販売名	下肢牽引装置	
分類	製造販売届出番号	13B1X00306N10032
	類別	器 01 手術台及び治療台
	一般的名称・JMDN コード	手術台アクセサリ 70469000
	クラス分類	一般医療機器
保管方法	高温・高湿を避け、温度や湿度が極端に変化しない場所および水のかからない場所に保管してください。	
耐用期間	適切な保守点検および適切な保管をした場合 7 年：注	

注：自己認証（弊社データ）による。耐用期間内であっても、使用状況または使用頻度により、突発的な故障、部品の著しい消耗・劣化・破損等を生じた場合は該当部品の交換が必要です。

●原材料

No.	商品名	原材料	No.	商品名	原材料
①	牽引装置アーム	ステンレス鋼	⑩	側臥位牽引用下腿受	ステンレス鋼
②	展開アーム（2 本組）	ステンレス鋼	⑪	頭部台（M）	熱硬化性樹脂 ポリウレタン
③	牽引器（2 本組）	ステンレス鋼	⑫	顔面受（N）	アルミニウム合金 ポリウレタン
④	靴型（2 個組）	合成皮革	⑬	頭部台アーム（O）	アルミニウム合金
⑤	股間支柱（マット付）	炭素繊維強化樹脂 ポリウレタン	⑭	牽引滑車	ステンレス鋼
⑥	小児用骨盤台（H）	ポリカーボネート	⑮	直達牽引器	ステンレス鋼
⑦	L 型膝関節屈曲用ポール	ステンレス鋼	⑯	簡易直達牽引鉤アタッチメント	ステンレス鋼
⑧	下肢受 下肢受け用固定金具付	ステンレス鋼	⑰	MOS-1300 用 移動式骨盤台	熱硬化性樹脂 ポリウレタン
⑨	側臥位牽引用股間支柱（カラー付）	ステンレス鋼 ポリウレタン	⑱	骨盤補助ボード	熱硬化性樹脂 ポリウレタン
			⑲	サポートロッド（2 本組） φ 25 × 1000mm	ステンレス鋼
			⑳	移動式骨盤台 1101 用	熱硬化性樹脂 ポリウレタン
			㉑	股間支柱のみ	炭素繊維強化樹脂
			㉒	股間支柱用マットのみ	ポリウレタン
			㉓	下肢受け用固定金具	アルミニウム合金
			㉔	カーボン製 L 型膝関節屈曲用ポール	炭素繊維強化樹脂
			㉕	ボルシヤルト用直達牽引器	ステンレス鋼
			㉖	下肢受本体のみ	ステンレス鋼
			㉗	幅広ベッケン（マット付）Ⅱ	熱硬化性樹脂 ポリウレタン
			㉘	布製補助ボードⅡ（ベッケンピン固定）	ステンレス鋼 ポリウレタン

表中の No. は、1.3 構成品 ■ 下肢牽引装置の番号に対応

6.2 下肢牽引用 V 字アタッチメント

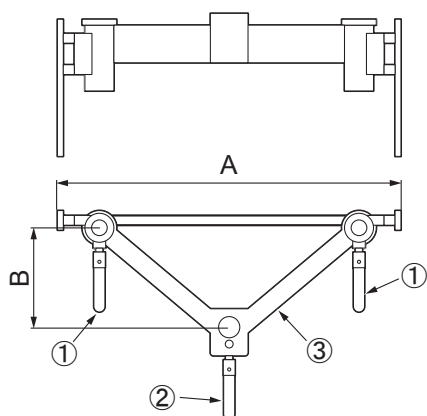
●仕様表

販売名	下肢牽引用 V アタッチメント	
分類	製造販売届出番号	13B1X00306N10030
	類別	器 01 手術台及び治療台
	一般的名称・JMDN コード	手術台アクセサリ 70469000
	クラス分類	一般医療機器
保管方法	高温・高湿を避け、温度や湿度が極端に変化しない場所および水のかからない場所に保管してください。	
耐用期間	適切な保守点検および適切な保管をした場合 7 年：注	

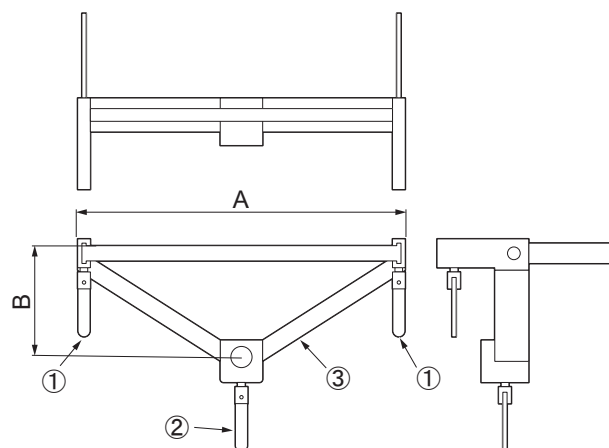
注：自己認証（弊社データ）による。耐用期間内であっても、使用状況または使用頻度により、突発的な故障、部品の著しい消耗・劣化・破損等を生じた場合は該当部品の交換が必要です。

●外観図

下肢牽引用 V 字アタッチメント ピン固定



下肢牽引用 V 字アタッチメント



商品コード	商品名	寸法 (mm)		質量 (kg)
		A	B	
08-115-23	下肢牽引用 V 字アタッチメント ピン固定	554	200	7.5
08-115-24	下肢牽引用 V 字アタッチメント ピン固定（カセット対応）	554	162	7.0
08-115-30	下肢牽引用 V 字アタッチメント	570	239	6.5
08-115-31	下肢牽引用 V 字アタッチメント カセット対応	570	200	6.0

●原材料

No.	構成品名	原材料
①	固定ハンドル	ステンレス鋼
②	アーム固定ハンドル	ステンレス鋼
③	V 字アタッチメント	ステンレス鋼

表中の No. は 6.2 ●外観図の番号に対応

改訂履歴

[illegible]

ミズホ株式会社

<https://www.mizuho.co.jp>

■ **本社** 〒 113-0033 東京都文京区本郷 3-30-13

■ 営業拠点

北海道センター	〒 060-0807 札幌市北区北 7 条西 2-6 37 山京ビル 2F TEL 011-716-4731 FAX 011-716-4803
東北センター	〒 980-0014 仙台市青葉区本町 1-11-2 SK 仙台ビル 2F TEL 022-227-1688 FAX 022-227-1698
新潟センター	〒 951-8068 新潟市中央区上大川前通七番町 1230-7 ストークビル鏡橋 6F TEL 025-229-5458 FAX 025-222-4684
北関東センター	〒 113-0033 東京都文京区本郷 3-30-13 TEL 03-3815-3193 FAX 03-3815-1280
東海センター	〒 464-0075 名古屋市千種区内山 3-17-4 スズシン第 2 ビル 3F TEL 052-732-7130 FAX 052-732-7131
関西センター	〒 550-0004 大阪市西区靱本町 1-10-24 三共本町ビル 7F TEL 06-6444-3840 FAX 06-6444-3860
中国センター	〒 730-0029 広島市中区三川町 7-7 三川町パーキングビル 13F TEL 082-241-8826 FAX 082-241-8836
九州センター	〒 812-0013 福岡市博多区博多駅東 3-1-1 ZENNO 筑紫通ビル 5F TEL 092-431-5022 FAX 092-474-4483

■ 関東圏 販売網（東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県）

ミズホアーバン株式会社 〒 113-0033 東京都文京区本郷 3-29-3
TEL 03-3811-0350 FAX 03-3811-1880

■ アフターサービスカスタマーセンター 〒 285-0808 千葉県佐倉市太田 2173-13

訪問修理受付	TEL 043-481-3367 FAX 043-481-3374
預り修理受付	TEL 043-481-3368 FAX 043-481-3375

■ ミズホショールーム 〒 285-0808 千葉県佐倉市太田 2173-13

○お問い合わせは営業担当までお願い致します。

■ 工場

千葉工場	〒 285-0808 千葉県佐倉市太田 2173-13
五泉工場	〒 959-1821 新潟県五泉市赤海 3631-14